

2018年  
インドネシア  
ジャカルタ映画祭  
白金賞

2018年  
アジア太平洋  
国際監督映画祭  
ゴールド賞

2018年  
アメリカ  
ルイビル国際映画祭  
最優秀外国語  
ドキュメンタリー映画賞

2018年  
アムステルダム  
フィルムメーカー国際映画祭  
最優秀外国語  
ドキュメンタリー映画賞

GIVE ME THE SUN

# 太陽がほしい

ドキュメンタリー映画 <劇場版>



あの日から  
私の心は  
晴れることがない

「私は慰安婦ではない——」

中国人女性のことばに耳を傾け、寄り添い、支え、記録を続けた20年。  
「慰安婦」という言葉からは想像できない過酷な人生がそこにあった。



監督・撮影 班忠義 / ナレーション：有馬理恵 / 編集：秦岳志 / 整音：小川武 / 音楽：WAYKIS  
出演：万愛花、尹林香、尹玉林、高銀娥、劉面換、郭喜翠、鈴木義雄、金子安次、近藤一、松本栄好、山本泉 ほか  
製作：彩虹プロダクション / 後援：ドキュメンタリー映画会「人間の手」、中国人元「慰安婦」を支援する会  
宣伝デザイン：直井恵 / 配給・宣伝：「太陽がほしい」を広める会 ©2018 Ban Zhongyi

[2018/中国・日本/108分/BD/ドキュメンタリー] [www.human-hands.com/](http://www.human-hands.com/)





750人の支援者と共に作り上げた  
インディペンデント映画が海外映画祭で最高賞を受賞！  
日本での凱旋上映が急遽決定！



戦時中、被害女性の多くはこの「ヤオトン」という民家に拉致、監禁され、性暴力を受けていた



### ● 「慰安婦問題」への関心が高まっている今、知ってほしい。戦時性暴力の実態と中国人被害女性の存在 —

1992年、東京で開催された「日本の戦後補償に関する国際公聴会」での、中国人女性・万愛花さんの証言により、中国人「性暴力被害者」の存在が明らかになった。当時、留学生として日本で学んでいた班忠義監督はその証言に衝撃を受け、万愛花さんの元を訪ねる。以降、現在まで中国人被害女性の支援活動を続けている。被害女性たちの多くは強烈な身体的、精神的暴力により、体調や精神に異常をきたしていたが、一切の補償を受けられず、戦後半世紀を過ぎても癒えることのない苦しみのただ中だった。

### ● 「被害／加害」対立する立場の証言が交差し、浮かび上がる事実。

本作では中国人被害女性だけでなく、元日本兵とその手下だったという中国人男性たちも証言をしている。かつて元兵士たちは公の場で自ら、中国人女性を拉致、監禁し、性暴力に及んだと語り、その内容は被害女性の証言と一致していた。しかし、戦争世代が少なくなるにつれ、日本国内では歴史修正主義が台頭。「慰安婦問題」は韓国女性を対象とした強制性の有無が議論の中心となっていく —。

### ● 彼女たちの歩んだ人生に光をあてられるのは、今を生きる私たちである。

日本社会の変化を感じとった班監督は、支援活動と並行して20年間撮りためてきた証言の映画化を決意。企画に賛同した750人もの支援者と共に、上映と編集を重ね、5年の歳月をかけて<劇場版>が完成した。映画に登場する被害女性たちがすでに亡くなっている今、私たちは次世代に何を残し、何を伝えるのか？彼女たちの眼差しが問いかけてくる。



8/3(土)より公開!

全国共通特別鑑賞券 ¥1,500 (税込)  
劇場窓口にて好評発売中!

東京 | UPLINK 渋谷

渋谷区宇田川町 37-18 トツネビル1・2階  
TEL 03-6825-5503 <https://shibuya.uplink.co.jp/>

大阪 | シネ・ヌーヴォ

大阪メトロ中央線・阪神なんば線「九条駅」下車徒歩3分  
TEL 06-6582-1416 [www.cinenouveau.com](http://www.cinenouveau.com)

愛知 | シネマスコーレ

名古屋市中村区椿町 8-12 アートビル1F  
TEL 052-452-6036 [www.cinemaskhole.co.jp/](http://www.cinemaskhole.co.jp/)

順次公開

京都 | 京都市みなみ会館 TEL 075-661-3993  
兵庫 | 元町映画館 TEL 078-366-2636  
広島 | 横川シネマ TEL 082-231-1001